

## 金属スクラップ事業は中国向けが好調

「Back to Japan」踏まえ国内にもフォーカス

橋本アルミ(株) 取締役

橋本 健一郎 氏



橋本アルミ(株)（大阪市浪速区桜川1-1-19、Tel.06-6561-3536）は、国内で発生したアルミや銅、真鍮（銅と亜鉛の合金）のスクラップを国内企業から買い取り、自社で選別およびプレス加工し、リサイクル原料として中国などに輸出している。特に中国には古くから進出して成功を収めており、中国ビジネスで成功した日本企業のさきがけ的な存在といえる。その一方、国内で発生したスクラップを国内で処理する「Back to Japan」のトレンドを踏まえた施策にも注力している。今回は、そんな同社を率い、また金属スクラップ相場のウォッチャーとしてマスコミにも度々登場している橋本健一郎氏に話を伺った。

### 10年以上の経験を要する スクラップ品質仕分け

——貴社のプロフィールは。

橋本 もともとは、今年で創業80年を迎える橋本金属(株)のアルミ部門としてスタートした。1984年に独立して現在の社名となった。事業を始めた当初はアルミスクラップのみを取り扱っていたが、その当時はアルミスクラップの流通量が少なく、希

少価値だったため順調に業績を伸ばしていく。やがて、自動車用エンジンのアルミ化が進むなど、アルミの流通量が増えると、銅や真鍮のスクラップも扱うようになった。

現在の取り扱い量は月あたり約800tだが、このうちアルミスクラップは200tで、残りを銅と真鍮のスクラップが占める。当社の強みは、古くから中国向け輸出に注力し、安定した中国ビジネスを行っている点や、国内で唯一ペールマシン（プレス機）を2基保有している点だろう。

——リサイクルの流れを教えてく

ださい。

橋本 国内の工場や解体業者から発生するオールドスクラップなどを回収する。それを持ち帰って品種ごとにランク分けし、さらに減量化のためのプレス加工を施して出荷する。出荷先は海外が8割を占め、中でも中国が圧倒的に多い。

——どのようにランク分けするのですか。

橋本 同じ金属製品であっても、使われ方や状態によって品質に差が出る。これをいくつかのランクに分類する。ハンディタイプの分析器を使うケースもあるが、時間がかかる



ペールマシン